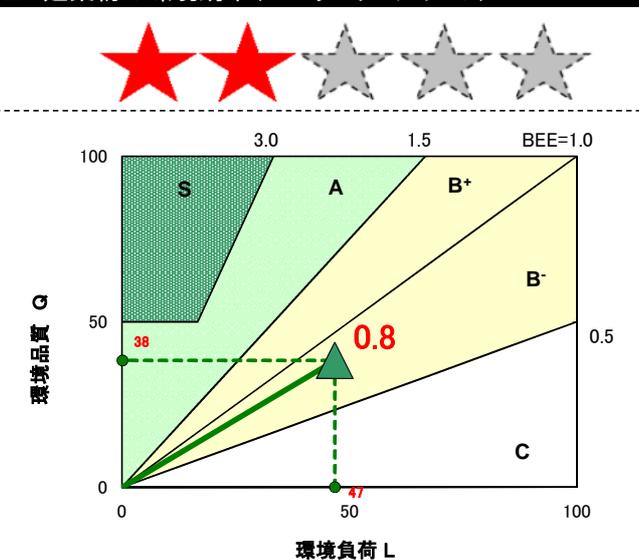


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	火乃国食品工業株式会社 氷川工場	階数	地上1F		
建設地	熊本県八代郡氷川町高塚字柿添11	構造	S造		
用途地域	指定無し	平均居住人員	8人		
気候区分	7地域	年間使用時間	1,920時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年8月 予定	評価の実施日	2020年11月13日		
敷地面積	22,699㎡	作成者	(株)桜樹会・古川建築事務所		
建築面積	2,309㎡	確認日	2020年11月13日		
延床面積	2,250㎡	確認者	(株)桜樹会・古川建築事務所		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 0.8

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

81%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点												
		67												
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">72.7</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">52.5</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">67.5</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">70.5</p>	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	火乃国食品工業株式会社 水川工場	階数	地上1F
建設地	熊本県八代郡水川町高塚字柿添1	構造	S造
用途地域	指定無し	平均居住人員	8人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年8月 予定	評価の実施日	2020年11月13日
敷地面積	22,699 m ²	作成者	(株)桜樹会・古川建築事務所
建築面積	2,309 m ²	確認日	2020年11月13日
延床面積	2,250 m ²	確認者	(株)桜樹会・古川建築事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 81% (37 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 81% (37 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 81% (37 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 評価点 = 67

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進 評価点 = 72.7

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 52.5

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 67.5

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 70.5

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物周囲に植栽帯を配置し、周辺環境との調和を考慮した計画とした。

Q1 室内環境

内装にはF☆☆☆☆建材を使用し、空気質環境に配慮した。

Q2 サービス性能

休憩室の広さに配慮した計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

建具は複層ガラスとし、熱損失、熱取得の低減に努めた。

LR2 資源・マテリアル

節水コマに加え、小水型機器を採用する事で水資源確保に努めた。

LR3 敷地外環境

周辺道路へ配慮した敷地出入口の計画とした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階
建物名称 **火乃国食品工業株式会社 氷川工場 新築工事**

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	67	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				72.7	0.40	29.08
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				52.5	0.20	10.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				70.5	0.20	14.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2016年版
火乃国食品工業株式会社 氷川工場 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.5	
Q1 室内環境			0.30		-		2.1		
1 音環境		1.5	0.15		-		1.5		
1.1 室内騒音レベル		2.0	0.40		-				
1.2 遮音		1.4	0.40		-				
1 開口部遮音性能		1.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		2.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-				
1.3 吸音		1.0	0.20		-				
2 温熱環境		2.1	0.35		-		2.1		
2.1 室温制御		2.3	0.50		-				
1 室温		3.0	0.38		-				
2 外皮性能		2.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性		2.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		2.0	0.20		-				
2.3 空調方式		2.0	0.30		-				
3 光・視環境		1.8	0.25		-		1.8		
3.1 昼光利用		1.8	0.30		-				
1 昼光率		1.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		1.0	0.30		-				
1 昼光制御		1.0	1.00		-				
3.3 照度		2.0	0.15		-				
3.4 照明制御		3.0	0.25		-				
4 空気質環境		2.6	0.25		-		2.6		
4.1 発生源対策		3.0	0.50		-				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材の採用	3.0	1.00		-				
4.2 換気		3.0	0.30		-				
1 換気量		3.0	0.33		-				
2 自然換気性能		3.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理		1.0	0.20		-				
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50		-				
2 喫煙の制御		1.0	0.50		-				
Q2 サービス性能		-	0.30		-		2.9		
1 機能性		2.5	0.40		-		2.5		
1.1 機能性・使いやすさ		1.6	0.40		-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30		-				
1 広さ感・景観		3.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース	休憩室: 34.52㎡ 34.52/2249.94x100=1.53	4.0	0.33		-				
3 内装計画		3.0	0.33		-				
1.3 維持管理		3.0	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	①ビニルクロス(汚れ防止タイプ)、②珪酸カルシウム板、③男子トイレに汚タレ石採用、④大きく異なる床材の接近無し、⑤防錆対策(溶融亜	3.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30		-		2.7		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		1.8	0.20		-				
1 空調・換気設備		1.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-				
3 電気設備		1.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		1.0	0.20		-				

3 対応性・更新性			3.6	0.30		-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高4.1m、7.0m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	175/2249.94=0.077	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40		-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.1
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.63	4.7	0.63		-	4.7
4 効率的運用			1.0	0.25		-	1.0
集合住宅以外の評価			1.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		-	-		-	
4.2	運用管理体制		1.0	1.00		-	
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.6
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60		-	2.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20		-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		2.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.0
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:81%	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	